

和歌山市立楠見小学校

平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

調査内容

実施日：平成 28 年 4 月 19 日(火) 実施対象：6 年生 2 学級 61 名

学校として、今回の調査結果を真摯に受けとめ、分析を行い、本校児童の課題を明らかにし、課題を達成するために楽しい、よくわかる授業づくりをめざし、全職員一丸となって取り組んでいきますので、どうかご理解、ご協力をよろしくお願いします。

全国学力・学習状況調査は、毎年 4 月に 6 年生が実施します。出題範囲を 5 年生までに含まれる指導事項を原則とし、国語・算数の 2 教科について、「知識」と「活用」の 2 種類の問題が出題されます。**国語 A・算数 A**では、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などについて**国語 B・算数 B**では、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などについて出題されます。

教科調査の結果分析より

《国語科の調査結果に見える本校生徒の傾向》

- 課題①「読むこと」では、目的にあった事柄を読み取る
ことが難しい。
- 課題②「書くこと」については、字数制限等の条件がつ
くと難しい。全国比より 13% 下回っている。
- 課題③ ローマ字で、詰まる音などの表記が難しく、
全国比より正答率が 19% 下回っている。
○漢字の読み書きは相当数の児童ができています。

(平均正答率)

	国語 A	国語 B
本校	63%	47%
和歌山市	69%	56%
和歌山県	70%	56%
全国	73%	58%

《算数科の調査結果に見える本校生徒の傾向》

- 課題①末尾がそろっていない少数の計算が難しく、
全国比より 13% 下回っている。
- 課題②平面図形や立体図形の性質の理解が十分でない。
- 課題③ 1 を超える割合を百分率で表す場面において基準量
と比較量の関係の理解が不十分である。
○不等号の意味、数の大小は相当数の児童が理解できている。
○基本的な計算問題はできる。

(平均正答率)

	算数 A	算数 B
本校	67%	41%
和歌山市	76%	46%
和歌山県	77%	46%
全国	78%	47%

質問紙調査の結果分析より

児童質問紙調査は、児童の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。

《学習意欲について》

質問のうち、学習は大切である。学習したことを普段の生活の中で役立てようとする。また、面白い問題があれば解いてみたい。という回答をした児童の割合は全国よりも高い。学習時間が、3時間4時間以上の児童は、3割弱あり全国より上回っている。

《学校生活について》

将来の夢や目標を持って生活していると回答した児童の数は全国より5%上回り、学校は楽しい、友達との約束は守るという児童は、多く全国を10パーセント上回っている。

生活習慣について

朝ごはんを食べないで登校している児童が若干いる。家の手伝いをしている児童が全国より少ない。スマートフォンやゲームをする時間は全国より若干多く、スマートフォンを持っている割合は全国より低い。本を読む、読まないが両極端である。

○全校の生活調べにおいても、朝ご飯を食べないで登校している児童が各学年において1割から2割います。成長や落ち着いて授業や様々な活動ができるためにも是非よろしく願います。

調査結果を受けて、本校が具体的に取り組んでいくこと

《国語における指導の重点》

○漢字やローマ字など繰り返し練習する。ローマ字は総合学習など国語以外の学習にも取り入れ身に付くようにする。

○見出しをつける等、文章から目的に合った事柄を読み取るための活動に力をいれる。

○字数制限等の条件がついた文章を書くことを授業に取り入れる。

○自分の意見が言えたり、友達の意見を聞いて自分の意見と比べたりすることができるように話し合う活動を授業に取り入れる。

○読書習慣が身に付くよう、職員室前のうちどくの本を貸し出したり、図書時間に教師が読み聞かせをしたり、読んだ本の紹介をクラスでしたりするなど本が好きになる手だてを考える。

《算数における指導の重点》

○分数・小数の仕組みを理解し、計算の練習を重ね定着を図る。

○平面図形や立体図形の性質を視覚に訴える具体物を通して理解する授業づくりに努める。

○担任以外の教員にも聞いてもらうなど、九九を反復練習を行う。

○子ども達ひとりひとりに合った補充学習を行うため、学びっこタイムの内容を充実する。

○各家庭に配布した学習の手引きの利用をお願いします。